

# The Location Around The World

行ってみたい名作の舞台へ…



# The Location Around The World

行ってみたいな名作の舞台へ…

2005年1月からスタートし、私が制作プロデュースを務めた映画の特集紙面、産経新聞「CINEMAGIC」。その中で、昔からやりたかった映画のロケ地を巡るコラム企画が実現した。その名は"The Location Around the World" 行ってみたいな、名作の舞台へ…。海外出張も多いし、古今東西の映画も大好き、スチール写真も撮りたい…それらを有効に活かす願ったり・叶ったりの企画のはず…だった。

しかし始まってみるとそのハードさは、ただものではなかった。ベルリンからはじまり、ロンドン、カンヌ、LA、北京、ウィーン…旅慣れていたはずの私が、来る日も来る日も、天気と体力との真剣勝負。2005年に廻った都市の数でいうと11都市、実に年間で55日間も日本を離れていた勘定になる。トラブル遭遇も少なくなく、LAではカーロック事件(レンタカー車内のゴミを捨てにいったら戻ってきたら、なんと車がオートロックされている<アメリカの車は盗難防止対策が半端じゃない>!さらに不幸なことにそこはバス停前だったので、怖いボリスのおばさんに移動させろ!と何度も注意される始末。翌日の帰国便にはもう乗れない!!とさえ思ってしまった)や、ウィーン~ザルツブルグ間でのスピード違反(パトカーが併走してきて、何とクイズ番組みたいなXマーク札を示された)。ロンドンのネズミ小屋?(ウサギ小屋よりまだ悪かった!!)超狭いホテルなど、今となっては懐かしい思い出だ。

「1年は続くかな??」と当初は軽く考えていたが、気がつけば4年が過ぎていた。2008年春に突然、心筋梗塞に倒れ生死を彷徨った手術の前日には神様の悪戯か、病院のベッドで、偶然にも「ライフ・イズ・ビューティフル!」を明け方まで執筆していた!…という私の人生にとっても忘れられない仕事になってしまった。

結局、2009年夏に「CINEMAGIC」が終了するまでの48回という回数を重ねるに至った。振り返って読み返してみると「もっとこの写真を載せたい…」と欲が出たりしてきた。そこでこの度、加筆・再編集をしてまとめ直してみた。旅の目的に好きな映画のロケ地巡りが加わると、自分が少しだけ映画の主人公や監督になったような気になれて何となく楽しいもの。そんな気分を皆さんが味わえる一助になれば幸いです。

松村千秀 2012年6月吉日





## 「ボーン・スプレマシー」の舞台、ベルリン コスモポリスはダイナミックに変貌し続ける

①ベルリン(ドイツ)

かつては「ベルリン・天使の詩」の舞台となったことでも有名な、ドイツ・ベルリン。来月公開される話題作「ボーン・スプレマシー」でも、多くのシーンがこの地で撮影された。テゲル空港、アレキサンダー広場、そしてCIA女性諜報員パメラ・ランディ(ジョアン・アレン)が泊まっているウェスティンホテルのあるフリードリッヒ通り…緊迫するストーリーをエキサイティングな街並みがフォローするように物語は進んでいく。

そんなベルリンは1990年のドイツ統一後、再び首都に再び咲き、もの凄いスピードで変貌し続け、訪れるたびにそのダイナミックさには本当に驚かされる。特に、旧東側、ベルリン・ミッテ地区の進化が著しい。東西分断のシンボルであったブランデンブルグ門周辺には政府の機関や各国の大使館等が引っ越してきた。そしてそのすぐ近くのフリードリッヒ通りは西側を凌ぐほどのショッピングストリートとして賑わっている。ポツダム広場も一大ショッピングゾーンに変貌。テレビ塔で有名なアレキサンダー広場から東側は、かつてグレー一色という感があったが、今はお洒落なエリアとして人気がある。この広場も「ボーン・スプレマシー」の印象的なシーンで登場する。

ドイツへのツアー旅行では、ドレスデン、プラハへの通過点として滞在時間が短いことも多いようだが、できれば2~3日ゆっくりと滞在してみたいベルリン。ニューヨーク、ロンドンよりも刺戟を受けることも少なくない。

そして、ボーン(マット・デイモン)が登場したウェスティンホテル・ロビーでチェックインしたり、ボーンとニッキー(ジュリア・スタイルズ)が飛び乗った路面電車に乗ったりしてみると、映画の主人公になれるかも…。でもCIAに捕まらないように、ご用心をお忘れなく?!



■The Westin Grandのロビー



■おしゃれなクリスマスマーケットもあった



■ニッキーと待ち合わせたアレキサンダー広場



■ベルリン市内には至る所にクリスマスマーケットがある



■ウンターデンリンデンのイルミネーション。大阪とはちょっと違って洒落ている



■筆者のツリーと姉妹関係のノルウェーからのツリー



■ベルリン訪問時の必須ディナーは、アイスバイン!

## ◆ちょっと寄り道 ドレスデン

ベルリンから車で南に約2時間の位置に、中世のムードが漂う素敵な街、ドレスデンがある。ドイツのクリスマスグッズ製造で知られるコルムニッツを訪ねることが目的で、夕刻テール空港を出発。運転してみたかったメルセデスMを借りて向かったが、夜の帳に迷いに迷ってホテルに到着したことを思い出す。ドレスデンの街は中世のクリスマスを再現したマーケットが本当に素晴らしかった。近郊にはあの有名なマイセンの街もあり、絵付け作業を見学できる。是非とも、もう一度行ってみたいエリアだ。





■木工細工のおもちゃがColminitsの特産品



■なかでもSTRACOというメーカーは大手



■マイセンの工房では絵付けが見学できる





誰もが「プリティ・ウーマン」になれる!?

ビバリー・ウィルシャワー・ホテル

③LA・ロデオドライブ(アメリカ)

近日公開の「Shall We Dance」主演のリチャード・ギアの大ヒット作「プリティ・ウーマン」(1990)。その舞台となったのはLA(ロサンゼルス)。中でもやはり印象的だったのが、実名で登場する「リージェント・ビバリー・ウィルシャワー・ホテル」。1928年にボーザール様式で建てられ、その絢爛な内装と超一流のサービスでLAでもトップクラスのホテルだ。リチャード・ギア演じる青年実業家ルイスとジュリア・ロバーツ演じるピピアンが泊まったペントハウスのシーンは、残念ながらスタジオセットでの撮影だったそうだが、そのモデルとなったペントハウスは言うまでもなく最上階に位置し、本当にビバリーヒルズを一望できる。でも、そんなペントハウスやスイートルームでなくても、広々としたスペースと豪華な内装はスタンダードな部屋で十分味わえる。まさに夢のような気分だ。映画公開直後だけでなく、今でも世界中からプリティ・ウーマンに憧れた女性やカップルがこのホテルにそんな夢を求めてやってくる。ただ皆さん、映画のちょっとオーバーなイメージで、スーツやドレスでないと入れない…と思われる方もいらっしゃるらしいが、そんな心配は無用。カジュアルな旅行でも全然気にすることはなく、スタッフは気持ち良く迎えてくれる。

ホテルの目の前には、ピピアンがブランド・ファッションを買いまくったブティック街ロデオ・ドライブが広がる。ここはビバリーヒルズでも、いちばんのブランド・ショップ・ストリートだ。気のせいだが、ここを通るクルマはポルシェやフェラーリなど世界の名車がやけに目につく。ピピアンが最初、意地悪をされたブティックも、今も通りの端にある。実際は誰にでもサービスの良いお店なのでご心配なく。

映画のロケ地を訪れる旅はいろいろあるけれど、ほとんどが、来て・見て・記念写真を撮って…で終わってしまう。時間がある限り泊まってその気分を味わえるというのはなかなか少ない。ここに滞在して、プリティ・ウーマン気分になるのもよし。街中に点在するロケ地巡りに興ずるのもよし。とにかく、映画好きには見逃せないホテルだ。そうそう、お泊まりの際には、シャンペンと苺のルームサービスをお忘れなく。



■正面から見た「ビバリー・ウィルシャー・ホテル」



■こちらは泊らせてもらった部屋だが、スタンダードでも十分豪華



■ビビアンが意地悪をされたブティック

## 押しも押されぬハリウッド 映画の歴史を感じて欲しい

⑤LA・ハリウッド(アメリカ)

今回は映画祭の舞台をご紹介します。先週から公開された話題作「ミリオンダラー・ベイビー」が今年の第77回作品賞、監督賞、主演女優賞、助演男優賞を受賞した「アカデミー賞」。その舞台が言わずと知れたアメリカ、ロサンジェルスハリウッドだ。「映画の都」として世界中にその名をとどろかすこの街、撮影所の多くは郊外に移転してしまったりして行政区としてのハリウッドは、今は厳密に言うと映画の町ということでもないのだが、やはり歴史とその圧倒的なイメージでハリウッドの名は映画界では別格だ。LA観光には欠かせない名所として年中、世界中から旅行者がやってくる。アカデミー賞授賞式が行われるコダック・シアター、その隣のチャイニーズ・シアター、そして歩道に刻まれた有名人の名前、特に人気にある俳優の手形の前では記念撮影が絶えない。一時期は治安の悪さが心配されていたが、コダック・シアターのある複合施設「ハリウッド・ハイランド」が出来てからはずいぶんと安心なムードになっている。

さてそんなハリウッド観光での必ポイントひとつ。チャイニーズ・シアターの前にある「ハリウッド・ルーズベルト・ホテル」をぜひ訪れてみて欲しい。ここは実は、記念すべき第1回アカデミー賞の授賞式が開催されたところ。今でも1階の奥にひっそりとあるブロッサム・ルームで200ほどの関係者が集まってディナー・パーティ形式で行われたそうだ。その当時のムードを残したロビーやアカデミー賞の母体、映画芸術科学アカデミーの会合が行われていたアカデミールームも保存されている。またこのホテルのプールサイドではマリリン・モンローがCF撮影をしたり、数々の映画やTVドラマにも登場する由緒あるホテルだ。最近ではレオナルド・デカプリオ、トム・ハンクス主演の「catch me, if you can」にやはりプールサイドが登場している。値段もリーズナブルなのでステイするのもおすすめ。ハリウッドのいちばんハリウッドらしいムードが味わえる場所だ。



■歴史を刻むROOSEVELT HOTEL



■入り口にはチャップリンが鎮座



■目の前はチャイニーズシアター



■大都会LAの中心から30分くらいで、こんな素晴らしいビーチが。大阪や東京では考えられない

## 意外な場所でロケ地に出くわす街、サンタモニカ散策はいかが？

### ⑥LA・サンタモニカ(アメリカ)

映画のロケ地巡りでハリウッドまでやってきたら、ぜひともリゾート気分を味わいにサンタモニカ・ビーチを訪れて欲しい。と言うか、ステイするのをこの近辺にするのがおすすめだ。LAの中では希にみるリゾートムードが漂うエリア。まさにカリフォルニアの青い空と海を満喫できる。ビーチの中心でもある、サンタモニカ・ピアにはポール・ニューマン、ロバート・レッドフォード主演、の名作「スティング」で、ポール・ニューマン扮する天才詐欺師、ヘンリー・ゴンドルフが仮の姿としてやっている木馬屋?のシーンに登場するメリーゴーランドが今も活躍中。その先は規模は小さいが遊園地になっており、週末にもなるとカップルや家族連れで賑わっている。

いつも羨ましく思うのだが、こちらのビーチでは賑わっているとはいえ、日本の海水浴場の、あの芋の子を洗うような混雑とはちょっとムードが違う。何となくゆったりとした混雑?に思えるのは気のせいだろうか…。

閑話休題。ビーチから少し離れたショッピングストリートは、歩行者天国になっており、いつも大賑わい(こちらは日本と同じ)。そこにあるサンタモニカ・ショッピング・プレイスは、「ターミネーター2」で新旧のターミネーターが格闘するシーンの撮影がされたところ。そう思ってショッピングしていると、ちょっとおっかなびっくりになってしまう…。

そんなサンタモニカは筆者としてはL.A.でいちばんのお気に入りのエリア。クルマでちょっと足を伸ばせば芸術家が集まるベニスビーチ、高級ヨットハーバーのマリナ・デル・レイも近い。そうそう、映画フリークにはたまらないプロップ(撮影で実際に使われた小道具)のお店も、この辺りでちょくちょく出くわす。リゾート気分を味わいながら、とっておきのお宝を探すのも映画の旅の愉しみのひとつだ。



■サンタ・モニカ・ピアの入り口のネオンゲート



■「スティング」のメーリーゴーランドも健在



■ショッピングセンターではターミネーターにご用心



■さすが!と笑みがこぼれるディスプレイ感覚



■ペンキの剥げた看板も絵になる!



■なんか、空気感が違う感じ?



■お薦めのホテル、「The Georgian」



## 撮影で実際に使われた小道具たち、 PROPを探す旅はいかが？

⑦LA(アメリカ)

前回にちょっと触れたPROP(プロップ)。映画撮影で実際に使われた小道具のことで、日本ではSTAR WARS展なんかでお馴染み。LAのハリウッド・エンターテインメント・ミュージアムなんかにも様々なプロップや映画セットなんかも展示されている。そんなPROPや衣装がLAでは誰でも簡単に買えるのだ。サンタモニカやハリウッド周辺を散策していると、骨董屋さんのようなPROPショップによく出くわす。そんな中でも人気なのがSTAR WARES COLLECTIBLESだ。キュートなマルシア・ティセリングさんが1989年にサンタモニカに開店。現在は商品が多くなりすぎてアゴーラヒルズの倉庫に移転。インターネットが普及した今や、ウェブサイトを中心に販売されており、誰でも簡単に買えるようになった。(惜しくも最近では辞められて悠々自適な生活を送っていらっしゃるそう)

でもやっぱり、自分で品定めしながらいろいろ見つけて廻るのが楽しい。その時、その時に意外な掘り出し物があったりする。「ハリーポッターの魔法の杖」や「インディー・ジョーンズの鞭」、そして撮影で実際に使われた絵コンテや台本なんかもあったりして、ワクワクもの。衣装なんかもさり気なく古着屋さんのように陳列されていて、一枚一枚見ていくのも面白い。時には血糊がベっとりついたTシャツなんかもあって、ドキッとしてしまう。(もちろん絵の具なのでご安心を)

これらのプロップや衣装は、映画撮影の時に何点かのスペアを用意して撮影される。そして撮影後にこのようなショップに廻ってくるわけだが、もちろん1点モノの超レアや反対に、店によっては眉唾のにせ物もあるそう。その点、STAR WARESなんかは直接映画会社と取引しているので安心だ。お気に入りの名画の、あのスターが着ていた一着をまとめて、スター気分になるのもいいかも。

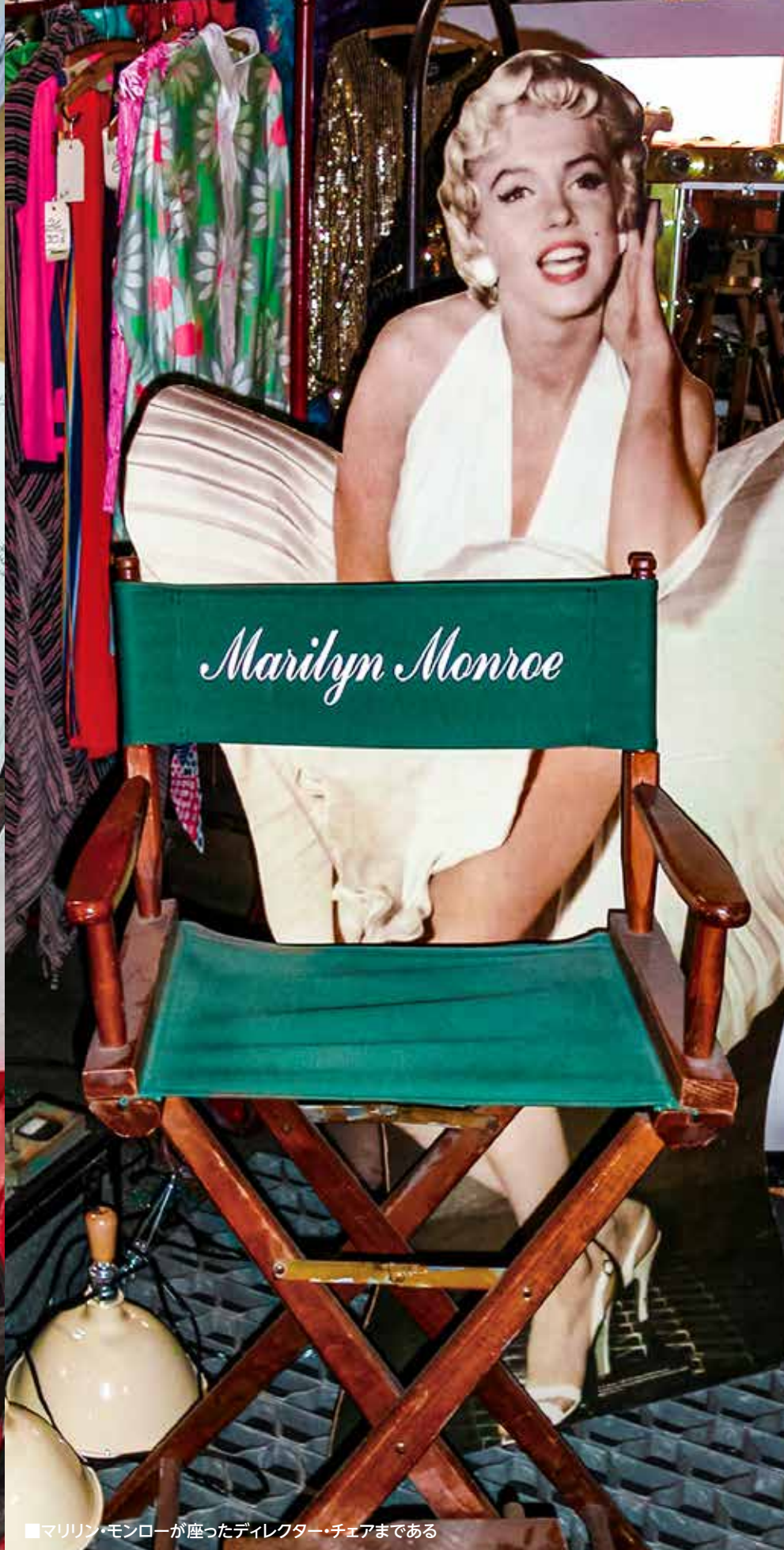




■「ハリー・ポッター」の絵コンテと無造作に置かれたネクタイ



■「インディーズ・ジョーンズ」の鞭はガラスケースに入れられた貴重品



■マリリン・モンローが座ったディレクター・チェアまである

# 下町情緒あふれるロンドン ブリジット・ジョーンズの棲み家

⑧ロンドン・テムズ川エリア(イギリス)

今年、第二弾の「ブリジット・ジョーンズの日記-きれそうな私の12か月」が人気を博したレネー・ゼルフィガー扮するブリジット・ジョーンズ・シリーズ。最高におちよこちよいで、でもチャーミングな愛すべきキャラクターが、世界中の人々、特に同世代の女性たちに圧倒的な支持を得ているようだ。原作はブリジット同様、30代のジャーナリスト、ヘレン・フィールディング。1995年、イギリスの新聞「インディペンデント」に、ロンドンで暮らすブリジット・ジョーンズのフィクション・ダイアリーがコラムとして掲載され大人気になったことが、この映画のルーツだ。

ロンドンを舞台にしたこの映画は、テムズ川を中心にしたエリアで撮影されている。なかでも彼女が住んでいるアパートメント界隈のポロー地区はロンドンの中でも下町風情が残る、何ともいえないムードのあるエリア。すぐ前にはポロー・マーケットがあり、ところ狭しと新鮮な食材が並び、地元の人々や観光客が集まる。なかなか通常のパッケージツアーでは行かないところなので、時間があればぜひ訪ねて欲しい。もちろんブリジットの住んでいるアパートメントもすぐ角にあるので記念撮影を忘れずに。目の前には、マーク・ダーシーとヒュー・グラント演じるダニエルが殴り合いの喧嘩をしたレストランもあるので、ここでランチをとるのも一考かも(地下鉄ロンドンブリッジ駅下車約5分)

そのほか、ブリジットがマーク・ダーシーと夜の散歩をするタワーブリッジの見える川沿いの遊歩道や友人たちとよくお茶をしたテート・モダン・ミュージアムのカフェもすぐ近く。ここはかつて発電所だったのを改装して美術館にしたところで、その大胆でモダンなインテリアは必見の価値ありだ。

お茶目なブリジットの喜びと悲しみを味わうそんなロンドンの旅も、なかなか洒落ていて面白のでは。





■テート・モダン・ミュージアムのカフェ



■テムズ川沿いの遊歩道散歩はいかが？



■ボロー・マーケットの入り口は歴史を感じる



Spanish green  
Stuffed  
With anchovy  
£2.40/200g

MIXED OLIVES  
With Coriander Seeds, Thyme &  
Garlic  
£2.40/200g

GREEN OLIVES  
With Basil & Garlic  
£2.40/200g

GREEN  
OLIVES  
With lemon  
£2.40/200g

GREEN  
OLIVES  
With lemon  
£2.40/200g

■オリーブも様々な種類が売られている。健康的!



■ボロー・マーケットは庶民的でいい感じ



■水菜は英語でMIZUNAだって



■ウサギは高級ジビエ。でもちょっと...

# キングスクロス駅、幻の「9と3/4番線」 ハリーの冒険はここから始まった

⑨ロンドン(イギリス)

ファン垂涎の最新作「ハリー・ポッターと炎のゴブレット」がもうすぐ公開される。2001年の「賢者の石」から数えて今回で4作目。J・K・ローリング著の原作は6巻を数える文句なく全世界のベストセラーだ。ご存じの通り、本作品の舞台は魔法の世界が似合う英国。ホグワーツ魔法学校はグロスターの大聖堂をはじめ北部のアニック城。空飛ぶクルマがぶつかりそうになったホグワーツ特急は北西部のグレンフィナン…とロケ地もイギリス中を点在し、それらを巡るだけで、まさに「英国ハリー・ポッター思い出の旅10日間」ができるのではないかと思う位のスケールだ。

でも“ロンドンに寄るので、ちょっと行ってみたい…”と言う方でも十分に楽しめる。何はともあれまず、地下鉄TUBEに乗ってキングスクロス駅に直行。いくら探しても駅構内には残念ながら9と3/4番線はないけれど、実際に撮影された4番線と5番線の間、煉瓦の壁が魔法のプラットフォームへの入り口。ここでしっかりと記念写真を撮る。そして地下鉄ピカデリー線に乗りホルボーンで下車、大英博物館へ。「賢者の石」でクリスマスのチェスのシーンに登場する由緒あるチェスの駒が42号室に展示されている。その後は、セントラル線で三駅のバンクへ。駅から東へ徒歩5分ほどのところにあるリーデンホールマーケット。ここの路地にハリーとハグリッドお気に入りのパブ「濡れ鍋」の扉、つまりダイアゴン横町への秘密の入り口がひっそりとある。今は鮮やかな青色に塗られた眼鏡屋さんになっているので見つけるのがちょっと難しいかも。そして再びノーザンライン線で北に向かい、カムデンタウンで下車。10分ほど歩くと、リージェンツパーク内にあるロンドン動物園に到着。ご存じ「賢者の石」でハリーが仲良しになった蛇の檻がある。動物園の入園料は11ポンド(2,200円)と、檻を見るだけでは少々高いので、リージェンツパークでのんびりとした散策を満喫してほしい。動物園内のカフェはピュッフェ形式で昼食におすすめ。

このリージェンツパーク周辺は「ハリポタ」とは関係ないが、面白い場所がいっぱいある。それは次回にご紹介…





■4番線と5番線の間柱に「9と3/4番線」がある??



■天下の大英博物館



■ロンドン動物園にはハリーの仲良しが





■ファン垂涎の横断歩道

## 「アビーロード」に「ホームズの下宿屋」…リージェンツパーク周辺は見逃せない!

⑩ロンドン・リージェンツパーク(イギリス)

前回ハリー・ポッター編でご紹介したハリーが蛇と心を通わせるロンドン動物園のあるリージェンツパーク。その北西、地下鉄セント・ジョーンズウッド駅からブラブラ歩いていくと、映画ロケ地ではないが、あの伝説のビートルズで有名になったアビーロードに出る。同名タイトルの名盤「アビーロード」のジャケットでメンバー4人が渡る横断歩道はあまりにも有名で、世界中からファンがやってくる。みんなジョンやポールになって大股で横断しながら記念撮影。すぐ近くにはアビーロード・スタジオがあり、ここでレコーディングされた「アビーロード」がビートルズ最後の作品になってしまった。(リリースは「Let It Be」が最後) クラシックの世界でも名門のスタジオなので、いかに立派なスタジオか?と、思いきや、意外にもこじんまりした建物。でも、ここからビートルズ伝説の数々が生まれたかと思うと、感慨もひとしおだ。

そして再びリージェンツパークに戻り、南西に向かうとそこに広がる通りが、かの有名なベーカー街。そう!あの名探偵シャーロック・ホームズのホームグラウンドだ。少年・少女の頃、ワクワク・ドキドキしながら読み耽ったアーサー・コナン・ドイル作「シャーロックホームズ」シリーズ。世が世なら、ハリー・ポッターに勝ると劣らない大ヒット映画シリーズになっていたかも知れない。今は何の変哲もないベーカー街を歩いていると、思わず小説の世界にトリップしてしまいそうだ。ベーカー街221bまでやって来ると、な、なんとホームズとワトソン博士が住んでいた下宿屋があるではないか! そんな「シャーロック・ホームズ博物館」は、ホームズの時代と小説の世界を忠実に再現した博物館で、ホームズの使った机やベッド、パイプ、探偵小道具一式まで展示されてる。もちろんフィクション小説なのだから、ホームズは実在の人物ではないが、それこそ本当に彼がここで数々の謎を解いていたかのような錯覚に陥ってしまう。建物からインテリア、展示品の全てが妙にリアルなのだ。ホントここだけの話、映画のPROPの比じゃない。一見の価値ありだ。



■リージェンツパークは広大で気持ちいい



■リージェンツパーク近くのメイフェア周辺は洒落ている



■アビーロード周辺は高級住宅街だ



■ベーカー街221bに、その下宿屋はあった!



■さっきまで、シャーロックがいたような...



■子ども達へのお土産にはこれだ!



■ウィリアムの冴えない旅行本専門店は、今はセレクトショップに

## 「ノッティグヒルの恋人」が見つかる？ どこか洒落てる、アンティーク街

### ①ロンドン・ノッティングヒル(イギリス)

今回で、ひとまずロンドン千秋楽。それを飾るに相応しい街!と私が独断と偏見で思っているのがノッティングヒル界隈だ。ご存じ、ヒュー・グラントとジュリア・ロバーツが主演のほんわかロマンス作品「ノッティングヒルの恋人」の舞台だ。1950年代には人種暴動が度々起こっていたというお騒がせな街だったそうだが、現在のノッティングヒルは若者が集う渋谷やアメ村の雰囲気を持ったアンティーク街という感じ。週末ともなるといかしたロンドンっ子がカフェに集い、様々なお店でショッピングを楽しんでいる。

ヒュー・グラント扮するウィリアムが経営する冴えない旅行本専門店があった場所には現在、インテリア・ファッションのセレクトショップになっている。もう少しポートベロロードを歩いていくとブレンハイム・クレセント(通り)との角に、アンナが泊まった朝、報道陣が押しかけた青い扉のウィリアムの家が左手にある。もっとも、映画公開後、青い扉は売りに出されたそうで、今は黒っぽい扉しかないが…。その交差点の対角にはウィリアムとアンナが初めて出会う店があるが、今はコーヒーリパブリックというテイクアウトカフェになっている。店内には少しだけ席もあるので、リーズナブルな値段で二人の出逢いの気分になれるかも。(何せロンドンの物価は、日本人旅行者にとって高すぎる)

アクセスは地下鉄ノッティングヒルゲート駅を下車して徒歩10分位で、ポートベロロードに出る。そこからは両端にアンティークショップや楽しい店が立ち並んでいる。映画のお陰ですっかり世界中に有名になってしまったが、おのぼり旅行者の観光地というより、まだまだ地元の人々のお気に入りのエリア…というイメージが強く、本当のロンドンライフを楽しめる場所だ。大英美術館やバッキンガム宮殿観光、ボンドストリートやナイツブリッジでのショッピングなどもいいが、こんなローカルな場所を訪ねてみるのが面白い。ひょっとするとウィリアムやアンナのようにいかした恋人を見つけることができるかも…



■店内にはアンナがいるかも??



■青い扉はもうない



■アンティークショップが軒を連ねるPortbello Road

JACOB'S



ORIGINAL & BEST  
CREAM CRACKERS



VUELTA CICLISTA A  
CATALUÑA  
GRAN PREMIO PIRELLI



Coppertone  
TANNING  
without Sunburn



ESTD 1862

6 7  
13 14  
20 21  
27 28  
MAY  
JUNE  
NOV



LAMBS  
delicious  
JAM



Makes the  
DAILY ROUND more pleasant!



BACARDI  
ESTD CUBA 1862



ROCHAINEMENT  
la très illustre Compagnie  
DU  
CHAT  
NOIR  
avec  
ses PIÈCES D'OMBRES  
CÉLÈBRES, ses POÈTES  
ses COMPOSITEURS



MILKA

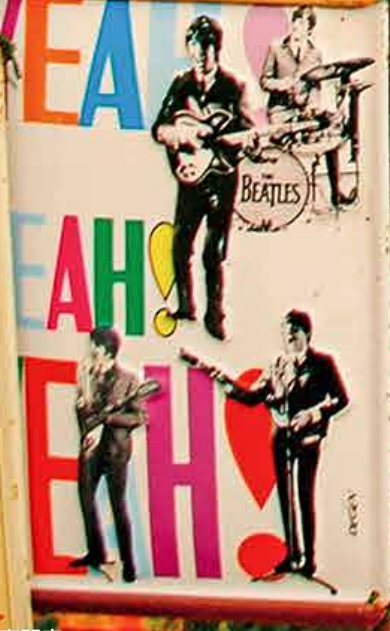
SUCHARD

7 8 9 10 11  
17 18 19 20 21  
27 28 29 30 31



AY BELAUNDE

SIDRA-  
CHAMPAGNE



EAT!  
EAT!  
EAT!



A HAL B. WALLIS  
PRODUCTION  
Casablanca  
BOGART BERGMAN HENREID



INCANDESCENZA  
A GAS  
BREVETTO AVER



VERMOUTH  
MARTINI  
MARTINI & ROSSI S.A. TORINO

# The Location Around The World

## volume 1 (Berlin/LA/London)



All pictures and texts were published on Japanese newspaper article to introduce splendor of each sites. These are not commercial content, but only editorial use, Therefore we never invade a right of personal portrayal, any rights of structures. And this edition is only my private memories. Please accept it.

not for sale